

# 子どもたちが学び合う喜びを感じられる 国語科の学習を目指して

～子どもたちを引き付ける指導の工夫～



## あいさつ

調布市教育委員会  
教育長 大和田 正治

この度、調布市立八雲台小学校は、令和4・5年度調布市教育委員会研究推進校として、「子どもたちが学び合う喜びを感じられる国語科の学習を目指して～子どもたちを引き付ける指導の工夫～」を研究主題として研究を進め、ここにその成果を発表されますことを、心から感謝申し上げます。

教育目標の「よく考える子ども」の育成を達成するために、国語科において子どもが個々に主体的に学び、様々な文章を読んだ時の考え方や捉え方の違いを、協働的に学ぶための指導法の工夫改善について研究を深めてきました。このような授業改善に向けた取組は、教員としての資質・能力の向上に向け、時宜にかなった取組です。

本研究の成果が、市内はもとより、多くの学校において子どもたちの学びの質の向上につながっていくことを願っております。

## 子どもたちが学び合う喜びを感じられる 国語科の学習を目指して

調布市立八雲台小学校  
校長 上田 義孝

本校では、令和4・5年度調布市教育委員会研究推進校の指定を受け「子どもたちが学び合う喜びを感じられる国語科の学習を目指して～子どもたちを引き付ける指導の工夫～」の研究主題のもと、研究を進めて参りました。

本研究では、子どもたちが主体的に考え学ぶために、どのようにして子どもたちを引き付ける指導の工夫をするかという教員による授業改善の視点が根底にあります。そして、子どもたちの考え方や捉え方の違い、つまり「ずれ」を学びの対象として、子どもたちの対話を生み出せれば、互いに学び合う喜びを感じられるのではないかと仮説を立て、授業実践によって検証を行って参りました。

2年間の研究を終え、授業における意図的・積極的な教師の行動が、子どもたちの主体的・対話的で深い学びに結び付き、「令和の日本型学校教育」における個別最適な学び・協働的な学びを充実させることに結び付いていくことが分かりました。この研究を更に深化させるためにも、今後も研究・研修を重ねてまいります。本校の研究を推進するにあたり、ご指導・ご助言いただきました講師の先生方をはじめ、調布市教育委員会、関係各機関の皆様にご心より感謝申し上げます。

# 1 研究のあゆみ

## 1 令和2年度末から令和3年度

### ① 令和2年度末の 教職員の対話から…

八雲っ子って  
読書が好きな子が  
多いよね!



正解が一つではない  
問いを考えることに対して苦手  
意識があるかな…。

国語科で「面白い」「またやりたい」と思ってもらいたい!

でも、そもそも国語科で教える  
内容(教科内容)が分からない!

※1

※1 教科内容…国語科と  
して系統的に学ぶ内容



子どもたちが没頭する国語にするための  
方法が分からない!

国語科の教科内容?

発問?

対話?

指導の工夫?

教師がこれら4つを学ぶ必要性がある!

研究主題

子どもたちが学び合う喜びを感じられる国語科の学習を目指して  
～子どもたちを引き付ける指導の工夫～

### ② 令和3年度当初、茅野先生の講話を通して…

「寒いね」と  
話しかければ  
「寒いね」と  
答える人のいる  
あたたかさ

引用：俵万智「サラダ記念日」



同じ安心感、「ずれ」るドキドキ感、  
“ずれ”は、対話を生む  
“ずれ”は、  
学校ならではの学びを創り出す!

▶ 何人の人がいますか?

2人!



そうだよね…。  
安心、安心。

▶ 誰と誰の会話ですか?

友達



考え方や  
捉え方が違う!

親子



＝「ずれ」※

どうしてそう思うの? 聞いてみたい!

※「ずれ」…考え方や捉え方の違い

考え方や捉え方の違いである「ずれ」を学びの対象にすれば、  
対話が生まれ、学び合う喜びを感じられるのでは?

### ③ 令和3年度の研究から分かってきたこと



※2 「教科内容」「教材内容」を踏まえた児童の実態に応じた「発問」が重要!

※2 教材内容…その教材だから学べる内容

## 2 令和4年度

### ① 令和4年度の研究の柱

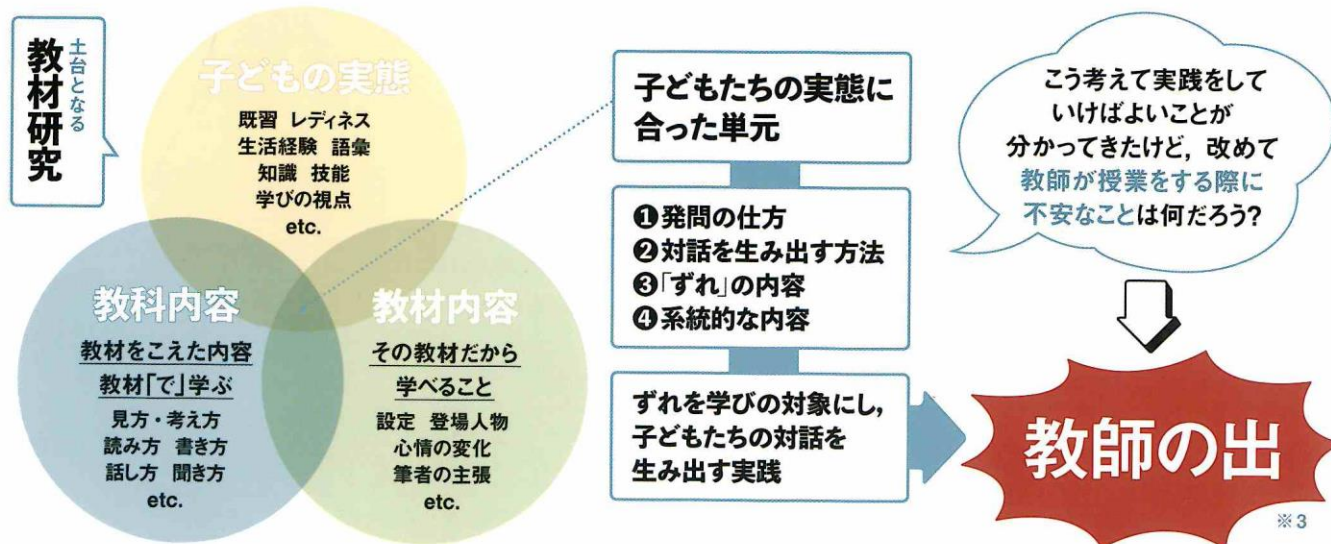


教科内容と教材内容の両方の視点で、子どもたちの実態に合った単元を構築する

### ② 令和4年度の実践

	主な手だて	授業実践から分かってきたこと
低学年分科会	納得できる順番に段落を並び替える	「ずれ」と対話を生み出す「比較」
中学年分科会	自分の考えの視覚化	意図的な教師の行動
高学年分科会	単元を通した二項対立の問い	実態に合わせた発問の仕方
わかあゆ分科会	オノマトペと動作化	教科内容と教材内容の理解
専科分科会	習熟度別のワークシート	言語以外のイメージや解釈の「ずれ」

### ③ 令和4年度の研究から分かってきたこと



※3 教師の出…子どもたちの思考が本時の問いから逸れてしまったり、議論を深めたい内容に気付けなかったりした場合に、意図的に行う教師の行動

### 3 令和5年度の研究

#### 1 令和5年度の研究の柱

研究の骨格 教科内容・教材内容を踏まえた「ずれ」を生み出す発問・活動

教師の不安から 子どもたちの対話を活性化させる「教師の出」



#### 2 令和5年度の実践

##### 高学年分科会

教材名 / 「いつか、大切なところ」  
～大切なところは、変わる？～

##### 目標

「亮太が思う亮太にとって大切なところ」考えることを通して、  
亮太の心情や登場人物同士の関係について捉えることができる。

##### 「ずれ」を生み出すための発問

「亮太が思う亮太にとって大切なところは  
前の学校？新しい学校？」

一読総合法（通読せず、区切られた内容ごとに読んでいく学習方法）で、「くり返し」「比喩（たとえ）」「色ことば」「情景描写」「対比」「文学ことば」「修飾語」などの表現から、中心人物が「大切にしているところ」について探っていった。一人一人の着目する叙述が異なっていたため、友達との対話が生まれた。教師が子どもの着目した叙述に対して、どの表現技法が使われているのか確認したことで、「ここにも情景描写が使われている。」など自分たちで表現技法に気付くようになった。

##### 手だて・工夫

- ① 「題名」を生かした発問の設定
- ② 子どもの言葉を整理する「教師の出」～学ばせたい表現技法～
- ③ 学びの履歴、話し方・聞き方ポイント集の掲示



「題名を生かした発問」



## 中学年分科会

教材名 / 「のらねこ」  
～のらねこってどんなせいかく?～

**目標** 「のらねこはどんな性格か」を考え、交流することを通して、のらねこの性格について考えを深めることができる。

「ずれ」を生み出すための発問 「のらねこってどんなせいかく?」

性格を読み取る学習は本単元が初めてとなることから、プレ教材として「のはらうた（詩集）」を取り扱った。性格を捉えるためには「会話文」「行動描写」「文末表現」等の表現技法から読み取れることを確認した。

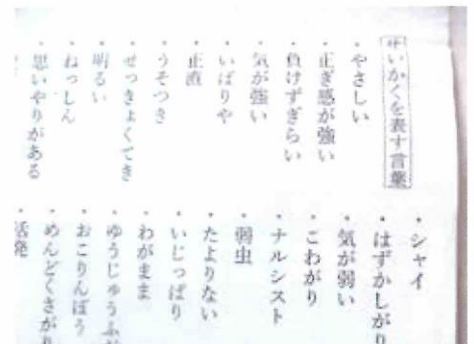
本教材では、プレ教材で学習した表現技法から「のらねこ」の性格について考えている様子が見られた。対話をする中で、性格には様々なものが混在していることに気付くことができ、一人一人が読みを豊かに広げていった。

### 手だて・工夫

- ① 思考を整理させるためのツール ～「のらねこメーター」、ワークシートの活用～
- ② 子どもの言葉を整理する「教師の出」  
～気付いている子どもへの発言の促し、教師から教科内容を提示～
- ③ 子どもが安心して活動できる学びの履歴 ～「性格リスト」の活用～



「のらねこメーター」



「性格リスト」

## 低学年分科会

教材名 / 「きつねのおきゃくさま」  
～「食べたい」レベルは?～

**目標** きつねの「ひよこ、あひる、うさぎの食べたいレベルはどのくらいか」を考え、交流することを通して、きつねの心情について考えを深めることができる。

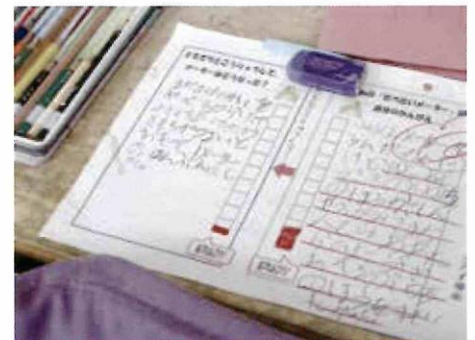
「ずれ」を生み出すための発問 「きつねの『食べたい』レベルはどれくらい?」

繰り返しの言葉や様子を表す言葉などの本文の叙述を基に、きつねがひよこ、あひる、うさぎを食べたいと思う気持ちの変化を6つの場面ごとに考えた。各場面の終わりにきつねの食べたいレベルをメーターに表し、そのように考える理由を書き入れていった。

二項対立ではない形で発問し、その理由について確認していったことで、3匹への愛情や太らせてから食べようという思いなど、「食べたい」以外のきつねの心情が豊かな読みとして表れていた。

### 手だて・工夫

- ① 教材文を6つに分割する提示の仕方
- ② ワークシートの工夫 ～きつねの「食べたい」メーターの活用～
- ③ 意見の可視化 ～赤白帽子や名前マグネットの活用～
- ④ 学びの履歴の掲示物化 ～叙述から根拠を見つけるための視点の視覚化～



「食べたいメーター」



「赤白帽子による意見の可視化」

## わかあゆ分科会

教材名 / 「おおきなかぶ」  
～おじいさんのきもちは?～

**目標** かぶを抜こうとしている時と、抜けなかった時のおじいさんの気持ちを考え、選ぶことができる。

「ずれ」を生み出すための発問 「おじいさんのきもちは、どのきもちかな?」

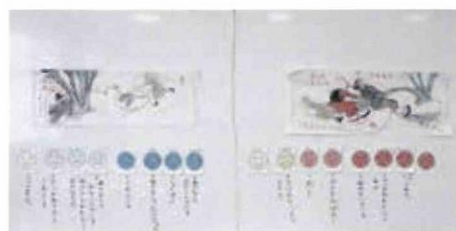
挿絵を基に、おじいさんの気持ちを考える活動を取り入れた。しかし、おじいさんの気持ちを言語化することが難しいことが予想されたため、おじいさんの気持ちを表現する気持ちカードを用意し、選択できるようにした。教師は子どもたち一人一人が選択したカードを黒板に掲示し、その理由を子どもに寄り添って言語化したことで、子どもたちは自分と友達の類似点や相違点を比較できるようになり、考えを広げることができた。

手だて・工夫

- ① 「気持ち」の選択肢化 ～気持ちカードの活用～
- ② おじいさんの気持ちを考える挿絵以外の手がかり ～動作化～
- ③ 子どもの思いを整理する教師の出



「気持ちカード」



「考えの比較」

## 専科分科会

題材名 / 光と影

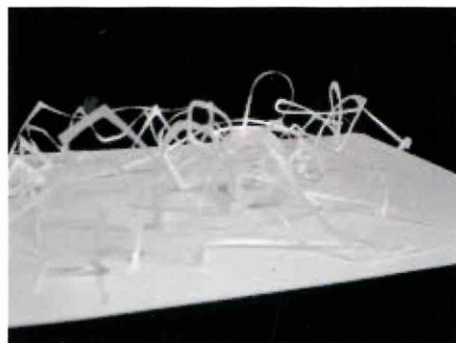
**目標** 自分の表したいことを見付け、自他の作品のよさや作品の変容を味わいながら新たな作品の魅力を発見することができる。

「ずれ」を生み出すための発問 「作品がより魅力的になるために、どんな光をつくる?」

子どもたちが制作した抽象的な立体に光を当てて、影を生み出して撮影する活動を行った。撮影時には、撮影者と光を当てる人との役割があることから、見る角度の「ずれ」が必然的に起きる。自分が見たものを伝え合う中で、一人一人の感じ方の違いを楽しみながら、作品づくりに取り組んでいた。教師は、子どもの表現と一緒に楽しみながら、他のグループの作品の鑑賞を促した。その結果、子どもたちは自他の表現のよさを味わいながら活動していた。単元の最後にタブレットで編集し、写真作品として表した。

手だて・工夫

- ① 影を生み出すための形 抽象的な形  
(素材、形：感覚的につくれ、他者のよさを取り込みやすい)
- ② 影を生み出し、変容させる  
(表現方法の試行錯誤を促し、作品の新たな魅力を引き出す)
- ③ 友達と協力して撮影をする  
(役割を担うことで表現方法や作品のよさを引き出す)



「抽象的な形」



「協力して撮影する」

## ② 研究を振り返って

子どもにどんな変化があった？（教師の実感）

叙述への  
着目

叙述に着目し、理由や根拠を基に考えるようになってきた。

他者を  
受容する  
態度

「友達の考えを聞きたい」と他者への発言に興味・関心を向けるようになった。

友達と自分の考えの違いを認め合い、違いを楽しめるようになった。

子どもの国語に対する意識は？（子どもの声）

学び合う  
喜び

作者や筆者が何を伝えたいのかを探ることが楽しい！

みんなで話し合いながらいろんなことを発見することが楽しい！

学びの  
広がり

情景描写が他の作品にも使われていて、面白いと思った！

教師自身にどんな変化があった？

教師の出

教科内容

子どもたちの考えの違いをつなぐために、「教師の出」を考えるようになった。

子どもの「ずれ」を想定することで、教科内容を深く読み取ることができるようになった。

研究してよかったことは？

子どもも教師も「教材の魅力」、「話合いの面白さ」に気付くことができた。

子どもも  
教師も  
楽しい国語

教師同士で授業や教材について話す機会が増えた。

もっとこうしたい！

国語科だけではなく、他教科でも「ずれ」を学びの対象とした授業づくりを考えていきたい。

「ずれ」を学びの対象にした授業を日常的に、継続的に続けていくこと。

研究を  
広げていく

教師が互いの授業を見合える、学び合える環境づくり。

